

37.5歳(読者平均年齢)、その私服姿で大丈夫?

OCEANS

OCEANS
ポマーケット開催
夏に効くアイテム、
期間限定販売!

シャレのわかった男たちの私服から拝借

私服に効く185

の春気分の服、
なんですか?



着方したいで
変わるちょっとし
"あしらい"とは

5
2017

服でワクワクって
結構幸せじゃない?

知っておくとい
新しいブランドと
自分との距離感

トレンドと関係なく
「いい服」はどれ?

オッサンになって、
あの頃の服
どう着ますか?



あなたのライフスタイルに寄り添う
「持ち方」でバッグを選ぶ
カルティエ/ブルガリ/オーデマピゲ/ヴァシュロン・コンスタンタン/
パネライ/ゼニス/ジャガー・ルクルト……and more!
「名刺代わり」になる腕時計の最新型
代名詞復活の予感
**VOLVO V90は
最高のエステートワゴンか?**

コンサルの異端児が
「コンサルされた」良書

マッキンゼー・アンド・カンパニーから独立後、経営コンサルティング会社の「フィールドマネージメント」を起業したのが2009年。いわゆる経営コンサルの枠組みに収まらない多様な活動を展開してきましたが、チームが育ち、僕の出演が減ってくる

と(笑)、しだいに退屈さを感じるようにもなりました。同じ頃、僕の親友で東京ナンバードワンホストの手塚真輝が、アーティスト集団「チン↑ポム」のエ

イヤイヤとの出会いを機に、遊んでくれなくなつたんです。それはもう大いなる嫉妬に燃えたわけですが(笑)、彼を通じてエリイヤンや「チン↑ポム」の活動を知らるうちに、彼らの恐れ知らずな表現に魅了され、僕のやる気にも火がつきました。「エリイはいつも

気が持ち悪い」は、14年に新宿の路上で行われた手塚とエリイヤンの結婚パレードをドキュメントした作品集。今もときおり見返しては、その破壊的スタンスに勇気をもらっています。その後、知人を介して、ステューシー創業者であるショーン・ステューシーのブランド、エスタブルに参画する機会を得ました。「90年代に口サンゼルスで育った僕にとって彼はスター。周囲に媚びな

いパンクな発言に共感していたこともあり、彼との仕事に僕の心臓は高鳴りました。このプロジェクトをきっかけに、なんと僕自身が服作りをすることにもなり、かくして僕のブランド「フィールドマネージメント」トラステッドグッズ&クロージングライン」が誕生したので。今振り返っても、コンサル畑しか知らない僕にとつてフィジカルな存在として世に残るモノを作る経験は、とても新鮮で面白いものでした。

「エリイはいつも気が持ち悪い エリイ写真集」 produced by Chim ↑ Pom」 チン↑ポム 著 朝日出版社 2800円

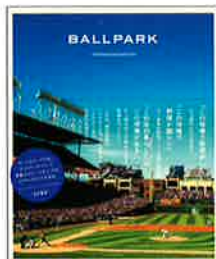


「日本プロ野球ユニフォーム大図鑑 全3巻セット」 網島理友 著 ベースボール・マガジン社 8400円



ユニフォームやロゴ、キャラクターデザインという斬新な視点から、日米プロ野球の歴史を紐解くマニアックな一冊。野球ファンなら、その詳細かつ緻密なデータの数々に唸るハズ。

「BALLPARK」 横浜DeNAベイスターズ 編 ダイアモンド社 4630円



地域密着、球場を中心とした街づくりを目指す横浜DeNAベイスターズの球場革命を示したステイメント的存在。アメリカのボールパークの写真や関係者インタビューを豊富に収録。



並木裕太 今月の活中
なみきゆうた●1977年、東京都生まれ。慶應義塾大学を卒業後、ペンシルバニア大学ウォートン校でMBAを取得。マッキンゼー・アンド・カンパニーからの独立後に起業。航空からスポーツビジネスまで幅広い企業の戦略コンサルタントを務めている。

OC CHOICE!



「自分で考えて生きよう」 松浦弥太郎 著 中央公論新社 1300円

大人が幸せに暮らす、そのコツを伝授!

丁寧な暮らしを送るコツを教えてくれる松浦弥太郎の新刊。工夫をするとコツが見つかり、そのコツは魔法となって生活をもっと快適にしてくれる。暮らし、仕事、人間関係、大人の服の選び方、食べ物の味わい方など、豊かな日常を紡ぐうえでの、筆者の優しい眼差しが綴られる。慌ただしい心を落ち着かせて、まずは自分の頭で考えることで、幸せはやってくる。



「ヒルビリー・エレジー」 アメリカの繁栄から取り残された白人たち」 J.D.ヴァンス 著 関根光宏、山田文訳 光文社 1800円

トランプ大統領を支えた白人たちの素顔とは?

ホワイトトラッシュ(=白いゴミ)という言葉は以前からあった。エムネムによる映画「8マイル」ではデトロイトの貧しい白人が描かれた。カリフォルニアは有色人種が人口の過半数を占める。ドナルド・トランプは、なぜ大統領選に勝利したのか。彼が勇気とプライドを与えた、貧困と無教養を世代を超えて引き継ぐ労働者階級の白人とは、いったい誰か?



「夫のちんぼが入らない」 こだま 著 扶桑社 1300円

初夜から入らない……。悩みつづ前進する夫婦物語

夫のちんぼが入らないという衝撃の物語が、著者の生きてきた実話として登場。18歳で出会った彼と初めて迎えた夜から「入らず」、その後も20年間、ずっと「入らない」ままで関係を続けてきた。精神的な結びつきを強くして結婚したものの状況は好転せず……。それにしても、なぜ「入らないのか」。そんな疑問を抱いた時点で、既に本書の虜である。